（令和元年９月試験研究業務月報）

情　報

イワガキの天然採苗を開始

「丹後の海育成岩がき」の育成に用いられる種苗は、府内海域で自然発生する稚貝を選択的に採取（天然採苗）※1したものを用いています。

近年、府内の天然採苗が不安定であることを受け、海洋センターでは浮遊幼生の大量出現を検出し、それに基づく採苗器設置のタイミングを見極める※2ことで種苗を安定的に採取する技術を開発しました。８月以降、水産事務所及び漁業者と協力して舞鶴湾周辺における浮遊幼生の出現状況をモニタリングしていたところ、９月上旬に浮遊幼生の大量出現を確認しましたので採苗を行う漁業者に情報提供し、直ちに採苗器が設置されました。今後、稚貝の固着状況を確認し、漁協を通して養殖業者に販売される予定です。このように安定採苗体制が確立されたことにより、「丹後の海育成岩がき」の生産拡大が期待されます。

※1 イワガキは、卵から孵化後 2 週間程度をプランクトンとして海中を浮遊した後、岩盤等に固着（着底）して親貝に成長する。天然採苗ではこの固着する性質を利用して、採苗器（ホタテガイの貝殻）に固着させる。

※2 採苗器の設置後、固着するまでの期間が長くなると他生物の付着や浮泥の沈着により固着稚貝数が少なくなるため、設置する時期を見極める必要がある。

幼生殻の形態識別とＤＮＡ分析によってイワガキ幼生を判別

海 洋 セ ン タ ー